

3年間(2007-2009)の地質の調査研修を振り返って(4) 研修の様子1：林道沿いでのルートマップづくり(第1日目午後)

ふちがさわおくごめせん あわそうぐんあまつそう
＜林道^{ふちがさわおくごめせん} 澁ヶ沢奥木線沿いの安房層群天津層 [清和県民の森内]＞



a. まずは、クリノメータを使っでの層理面の測定法の学習(復習)から。安房層群天津層。2007年10月。



b. 鍵層柱状図の作成法。地層の厚さは、層理面に直角に尺をおいて測定し、誤差を1割以内に抑えるようにと指導する徳橋。柳沢幸夫氏撮影。2009年10月。



c. 林道沿いにみられる凝灰岩鍵層のひとつの紅ザケタフ。蛇行する林道沿いに何度も出現する。個々の鍵層は、メインの凝灰岩とその上下に出現するいくつかの凝灰岩の組み合わせで設定される。2009年10月。



d. 進行方向をクリノメータで、距離を歩測(複歩)してルート図を作成しながら、ときどき層理面も測ってルートマップを完成させていく。2008年10月。



e. 雨の日のルートマップづくり。2009年10月。



f. 林道沿いでのルートマップづくりは、暗くなってクリノメータの文字が読めなくなるまで実施する。2007年10月。